

「送り証文之事」と「離縁送一札之事」を読む

史料① 送り証文之事（ふさ）

（林家No.5442）

送り証文之事

当村忠蔵娘

一

ふさ

年拾九歳

右女、其御村方彦右衛門殿仲人ニ而
同村伊之助殿倅右源次女房ニ差遣シ
申候、尤、忠蔵儀、御法度之宗門類族ニ
而無御座候、然上ハ、当村人別帳相
除キ申候間、其御村方人別帳面江御載
可被成、為後日送り証文、仍而如件

酒井但馬守知行所

比企郡元宿村

名主 又四郎^印

文化三寅年

四月

赤尾村

御名主中

史料② 離縁送り一札之事（登代）

（林家No. 4 1 5 7）

離縁送一札之事

其御村方関右衛門殿女子

一とよ

当未廿弐歳

右之もの、去牛正月中平沼村猶右衛門殿

仲立を以、当村忠右衛門養女二貫請候処、

不相應ニ而、此度離縁致シ、右関右衛門殿江

相返候旨申出候ニ付、然上ハ、当村人別宗門

両帳面相除候間、以来其御村方両帳面江

御書載可被成候、為後日離縁送一札、如件

秋元但馬守領分

武州比企郡一本木村

名主 間下仲右衛門 印

天保六未年三月

赤尾村

御名主仲